

「楽しく、よくわかり、互いに関わり合う授業」のための ICT 機器の活用

－ ICT 活用授業のアイデアあれこれ－

島根県隠岐の島町立西郷中学校 主幹教諭 渡部 正嗣
saichu1@town.okinoshima.shimane.jp

キーワード：中学校、英語、プレゼンソフト、わかる授業、学習意欲、人間関係

1. はじめに

生徒の学習意欲を高め、お互いに関わり合いながら主体的に取り組めるよう、指導方法の工夫改善を図ることは、確かな学力と温かい人間関係、コミュニケーション能力を育成する上で大変重要なことである。そこで次の3点をねらいとして、ICT活用による授業改善に取り組んだ。

- ・英語学習の楽しさや喜びを感じさせ、主体的に取り組もうとする意欲を高める。
- ・効果的な導入や繰り返し学習などを取り入れた「わかる授業」により、学習事項の定着を図る。
- ・他者との関わり合いを通して「つながり感」を得させ、温かい人間関係やコミュニケーション能力を育成する。

しかし本校には、デジタル教科書や電子黒板など高価な ICT 教材や備品はない。身近な ICT 機器をアイデアと創意工夫で活用し、ねらいに迫ろうと考えた。

2. 実践に用いた ICT 機器等

- パソコン (Mac & Windows) ○iPad
- モニター用 50 型 TV
- インターネット ○デジカメ
- ボイスレコーダ ○MP3 プレーヤー

3. 実践事例

3. 1 プレゼンテーションソフト等の活用

(1) 新出単語の導入と「書き練ノート」

新出単語の導入に使うフラッシュカードをプレゼンソフトで作成。クリックをするだけで単語が変わるので、生徒の口の開き方や発音の観察に集中できる。口頭練習だけでなく、「書き練ノート」を使った書く練習と組み合わせて使うことで、定着度が高まった。



写真1
モニターとPC

(2) 新出文型の口頭反復練習

英文の一部を、次々に違う単語に変えて英文を作る口頭反復練習。和文英訳や並べ替え問題、穴埋め問題、絵を見て英文を作成する問題など、様々な活用が可能である。短時間に、できるだけたくさんの英文を口にするのをねらいとして取り入れている。

(3) 異文化理解等の資料提示

教科書に出てくる外国の話題について、より詳しい情報を提供。インターネットで得た情報や外国で撮った写真・映像などを、関連する単元で紹介する。ホームランが海に落ちるサンフランシスコジャイアンツ球

場の「Splash Hit」の映像や、イースター島のモアイ像の運搬方法に関する映像資料など、生徒の興味関心を高め、本文の理解をより深めたと感じる。

(4) スクロールリーディング

英語の長文読解が苦手な生徒は、「読もうとする意欲がない」「返り読みして正確な日本語に直さないと気が済まないのが遅い」といった特徴がある。

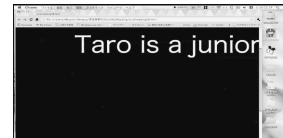


写真2
長文のスクロール

英文を文頭から、英語の語順で理解する習慣を付けるため、長文をモニター画面右側から左側にスクロールする教材を html タグで作成し、ブラウザソフトで動かした。生徒は画面に集中するため、普段は嫌がる長文も最後まで読み切ることができ、苦手意識が改善された。文頭から意味を取りながら読む感覚も身についた。

3. 2 インターネットの活用

(1) ウェブカメラを使った世界の街角ウォッチング

外国のハロウィーンやクリスマスの実際の様子を、EarthCam 等のウェブカメラサイトを使って観察した。ハロウィーンの日々のNYのウェブカメラには、仮装した人々が数多く写り 10 分程度のウォッチングだが、日本では見られない光景にクラスは大興奮だった。

(2) Google Earth を使ったヴァーチャル世界旅行

GoogleEarth のストリートビュー機能を使うと、教科書に出てくる外国へヴァーチャルトリップすることができる。新しい英語指導助手(以下 ALT)が来た時、自己紹介の中で使うと、ALT の家へ実際に出かけたような気分が味わえ、世界を身近に感じることができる。

(3) チャット機能を用いた「Who am I?」

無料のレンタル掲示板やチャットサービスを使い、生徒はパソコン室のそれぞれのPCから、ハンドルネームでログインする。教員による英語の質問に答えを打ち込みながら、それぞれのハンドルネームが誰なのかを推測する。英語が苦手な生徒も、他の生徒の英文を見て、まねをしながら取り組むことができる。

(4) 国際交流サイトを活用した調べ学習

「ePals」や「つながる (国際文化フォーラム)」などの国際交流サイトを使って課題解決学習を行う。総合的な学習の時間に頻繁に活用した。サイト内で外国の知りたいことについて質問をすると、様々な国の同年代の生徒から直接回答が届く。各国の「お小遣いの値段」や「しゃっくりの止め方」など、自分が尋ねた素朴な疑問への回答を、一生懸命辞書を引きながら、意欲的に読もうとする姿が見られた。

3. 3 音声再生機器・ソフトの活用

(1) 繰り返しと速度変化のリスニング練習

リスニング練習にPCを使うと、聞きたい部分だけを何度も繰り返し聞かせたり、スピードを変えて聞かせたりすることができる。パソコンに取り込んだ教科書CDの英文を、先に速い速度で何度か聞かせると、その後の普通の速度でのリスニングを、非常に簡単に感じる効果もあった。

(2) MP3プレーヤによる読み練習、リスニング練習

安いMP3プレーヤを1人1台準備し、読みの練習や長文のリスニングに活用している。一斉読みだと人に合わせるため、不自然な発音になりがちだが、MP3プレーヤでイヤフォンから英文を聞きながら読む練習すると、正しい発音やスピードに近い読みができる。聞こえてくる英文を追いかける「シャドウイング」は特に効果的な学習方法である。



写真3 MP3プレーヤ

3. 4 デジタルカメラ、iPad等の活用

(1) デジカメ紙芝居(四コマ漫画)

スキットを作る単元で、教科書の絵を使わず、グループで撮ったデジカメの写真で四コマ漫画を作成させる。連写機能などを使って、デジカメの撮影を工夫し、4枚の写真を選んで英語のセリフをつける。それをグループのメンバーがボイスレコーダで録音し、プレゼンソフトで組み立てた。グループで協力して活動するのが、人間関係の育成においても大変有効である。

(2) ボイスレコーダで発音チェック

MP3プレーヤで音読練習をする際、ボイスレコーダで録音し、それをイヤフォンで聞いて発音を確認する。始めは嫌がるが、少しずつきれいな発音を意識するようになった。ボイスレコーダが1つしかないため、交代しながら取り組ませている。

(3) 欠席した生徒のための板書記録

生徒が授業を欠席した時、黒板の板書等をiPadで撮影し、次の日学校へやってきた時に個別指導する。生徒はiPadの画面を見ながらノートを取る。

(4) ビデオスキット作り

対話文の学習の際、ペアやグループでのロールプレイをiPadのビデオ撮影機能で撮り、クラスで鑑賞する。別室で撮影するので生徒は恥ずかしがらず、また何度でも撮り直しできるので、教室の前で演技するより、感情の入ったリアルな表現活動ができる。

3. 5 その他

(1) エクセルで作った席替えソフト

英語の授業は、机をコの字にセットした国際理解教室で行うが、席順は毎授業前に抽選で決めている。エクセルで生徒の出席番号に乱数を割り振り、それをソートすることで席とグループを決める。普段の人間関係に左右されないで、様々な人と協同学習を進めることで、人間関係の育成をねらった。

(2) ALTの口の動きを拡大

英語独特の発音の仕方を教えたい時、実物投影機(ビデオやiPadも可)でALTの口元をモニターに映す。1年生の入門期に実施した。ALTが声を出さずに口の動きを見せ、生徒はそれをまねながら、何と言っているかを考えることで、発音の仕方を意識づけた。

4. 成果と課題

4. 1 成果

(1) 学習意欲の高揚に関して

ICTを活用することで、生徒の集中力は大幅に向上した。短時間の学習活動を組み合わせる構成することもある。時間がたつのを早く感じる生徒が多い。ウェブカメラやGoogleEarthを使うと、皆、目を輝かせて夢中になる。MP3プレーヤを使った音読やリスニングも、生徒が大好きな活動になった。毎学期行う生徒による指導者評価でも、英語が楽しいという生徒が多く、さらに主体的な学習につながることを期待する。

(2) 「わかる授業」の実践に関して

プレゼンソフトによる単語練習、文型練習は短時間に多くの英語を口にすることができ、視覚的効果による集中力や定着率の向上も見られた。教員はクリックするだけで、生徒の口の動きを確認することができる。デジタル教科書にも同じようなものがあるが、単語の提示の仕方を様々に変化できるのが利点である。長文読解のためのスクロールリーディング、スピードを変えて聞かせるリスニングは、特に生徒の英語能力の向上に貢献し、実力テスト等の平均点も伸びた。

(3) 温かい人間関係の育成に関して

毎時間席替えをし、多くの活動をグループ単位で実施したことで、様々な仲間と関わり合う機会が増えた。デジカメ等を使ったグループでの協同学習は、人間関係調整能力の育成に特に有効だったと考えている。人間関係への不安感を軽減し、相手のことを考えて関わり合おうとする思いやりや、コミュニケーション能力を育てつつあると感じている。



写真4

グループでの活動

4. 2 課題

本校では校内研究でもICTを活用した授業づくりを推進しているが、活用能力に個人差が大きく、アイデアを共有しても実践につながらないことが多い。また自作ICT教材の準備は時間がかかり、敬遠する教員が多いのも事実である。しかしその利便さや学習効果を考えると、様々な教科で活用できるものであると確信している。ICTを活用すれば学力が上がるといった短絡的な考え方は良くないが、ICT活用の良さを知り、誰もが活用できるよう研修していくことが大切である。またこうした授業のアイデアやICT教材を、自校・他校の教員同士で共有し、誰もが活用できる環境を整えていくことも必要であると考えている。